第 54 号　2024/4/15

「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

日本国内のはしか感染者拡大の懸念

「子どものワクチン接種率減少」

感染力が強い麻疹（はしか）の患者が、日本国内で相次いで確認されている。世界的な流行の影響で、今年は海外渡航者を中心に少なくとも２０人になり、昨年（２０２３年）１年間の３分の２を超えた。子どものワクチン接種率が下がっており、専門家は感染の拡大を懸念する。

「世界で流行している感染症です」。厚生労働省の関西空港検疫所は、入国エリアに各国の麻疹の感染状況などを示したポスターを貼り、自動音声でも注意を促している。

ＷＨＯによると２３年、世界の患者は約３２万人で前年の１・８倍だ。浜田篤郎・東京医大特任教授（渡航医学）は「コロナ対策に注力した結果、主に途上国で子どもの麻疹ワクチン接種が滞り、流行した」とする。麻疹の感染力は極めて強い。免疫を持たない集団では、１人が平均１２～１８人にうつすとされる。空気中に浮遊する粒子を吸う感染もあり、マスクや手洗いだけで予防できない。有効な対策は２回のワクチン接種だ。１９９０年４月２日生まれ以降は、公費助成がある定期接種を２回受ける機会があった。５０歳代以上は、接種していなくても、幼少期に感染して免疫を持つ可能性が高い。神奈川県衛生研究所の多屋　馨子けいこ　所長は「定期接種の対象年齢になったらすぐ接種してほしい。感染歴がなく、母子手帳などの記録から２回の接種が確認できない人は、免疫が不十分な可能性が高いので、海外渡航前にワクチン接種の検討が望ましい」と呼びかける。（読売新聞）

関西空港検疫所での麻疹のアナウンス

（ウイルス感染から約１０日後に発症、高熱や発疹などが起こる。脳炎や肺炎などの合併症があり、１０００人に１人が亡くなる。）

感染症	基本再生産数
麻疹（はしか）	16～21
ムンプス（おたふくかぜ）	11～14
風疹	7～9
水痘（水ぼうそう）	8～10
ポリオ	5～7
天然痘	5～7
百日咳	16～21
インフルエンザ	2～3

基本再生産数(その感染者の免疫を持たない集団において、１人の感染者が感染させる平均人数)が非常に高い。

麻疹（はしか）という病気を聞いたことのある方は多いと思います。日本は 2015 年に WHO から日本国内で定着している麻疹のウイルスは存在していない「排除国」と認められています。つまり、日本で発表されている感染者の総計は、海外から帰国した人が感染していた場合と、その感染者からの感染が日本で確認された合計となります。日本では 1966 年から麻疹のワクチン接種が始まり、多くの日本人が接種した結果、感染者の拡大を防げています。しかし、現在では国内に定着していないウイルスとなっているので、子どものワクチン接種率の低下が、感染拡大につながることが懸念されています。先日も、アラブから帰国した人が大阪城で行われたコンサートに参加し、その後、麻疹の感染が確認されたことがニュースになり、バンドグループが注意喚起の発表をしていました。世界の国々はこれまで感染症に対して様々な対応策をとっていますが、広がり続けている感染症もあります。感染症の流行にはその国の生活様式、住む生き物、気候など、様々な要因があります。海外旅行する際にはそのような背景も含めて調べてみると、国際理解がより深まっていくのではないでしょうか。　　（依藤）